

緑のセンターだより

No.204

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行:令和5年10月1日

講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日から、20日が休館日の場合は、翌日の21日から)
講習会の案内は、広報旭川市民「あさひばし」に掲載します

「森の香りと人への効果」

日時 令和5年11月3日(金・祝) 定員15名
午後13時00分～15時00分
講師 森ん歩の会 中村 正雄さん

※講座の受付は、10月20日(金) 午前9時～

「ドライフラワーでしおり制作」

日時 令和5年11月18日(土) 定員10名
午前10時30分～12時00分
参加費 1,000円
(ドライフラワーなど材料費)
講師 旭川農業高校生徒

※講座の受付は、10月20日(金) 午前9時～

「多肉植物の寄せ植え講座」

日時 令和5年11月26日(日) 定員10名
午後13時00分～15時00分
参加費 3,000円
講師 フラワーマスター 山本 裕美さん

※講座の受付は、10月20日(金) 午前9時～

「コキアでほうきを作ろう」～子ども編～

日時 令和5年12月17日(日)
午前10時00分～11時30分 定員5名
午後1時30分～3時00分 定員5名
対象は小学生以上(低学年は保護者同伴)高校生以下
参加費 各800円
講師 緑のセンター職員(フラワーマスター)

※講座の受付は、11月21日(火) 午前9時～

展示会のご案内

「木の実・草の実展」

日時 令和5年10月2日(月)～30日(月)
作品提供 神田 亘雄さん

秋の景色 in 緑のセンター



オオモミジ

【休館日のお知らせ】

4月～10月は、第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)
11月～3月は、毎週月曜日が休館日です。(")



10月の園芸作業

1、鉢花・草花・球根類

- **カンナ**、**ダリア**、**グラジオラス**など春植え球根類は地上部が枯れたら掘り上げて、7～8℃程度の場所で保管しましょう。
- **フクジュソウ**などの宿根草しゅっこんそうの株分けと植え替えをする場合は上旬までに行いましょう。
アザレア、**クンシラン**、**シクラメン**はできるだけ戸外で管理し、低温に慣らしましょう。
- **秋植え球根**(**チューリップ**、**スイセン**、**ヒヤシンス**、**クロッカス**、**球根アイリス**等)は10月中旬に植えましょう。植付け深さは球根の高さの3倍程度、間隔は直径の4倍程度です。
- **ユリ**の定植は10月下旬、球根の高さの5倍の深さに植えます。移植する場合は、球根を乾かさないように掘り上げたらすぐに植えましょう。

2 庭木・果樹類

- **キョウチクトウ**、**ツバキ**など戸外で冬越するのが難しい種類は下旬に室内に移します。

3 観葉植物類

- 戸外の鉢植えは寒さに弱い種類じゅんじから順次室内に取り込みます。一緒に病気や害虫を持ち込まないように、事前に病虫害の防除をしておきます。
- **アロエ**は日の当たる暖かい室内の窓辺に置き水やりは控えましょう。
- **カネノナルキ**むだんぼうは無暖房の室内の日当たりの良い場所に置いて水やりは控えましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**たんじつしよりは短日処理を行いクリスマス頃に開花させましょう。**イースターカクタス**(**カネサボテン**)の開花は4～5月です。それまでは水やりは控え、肥料は中止しましょう。
- サボテン類は下旬ころから水やりや肥料は中止し、休眠きゅうみんさせましょう。



11月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- **クンシラン**は8～10℃の低温に約60日間合わせると花が順調に咲くようになります。
- **サイネリア**、**カルセオリア**、**フリムラ**類、**シクラメン**など低温で育てている場合でも乾いたら朝方10時ごろにたっぷり水やりをし、肥料は置き肥を月1回と2,000倍の液肥を7～10日に1回与えましょう。よく太陽に当てて育てます。
- **アマリリス**は葉が枯れてから室内に入れ凍結しない場所で管理しましょう。
- **アザレア**は暖かい室内では花がうまく咲かないので、暖房のない部屋でゆっくりと育てます。
- **ハイビスカス**は水と肥料が不足すると落葉が目立つようになるので注意しましょう。

2 庭木・果樹類

- **フジ**は来年の花芽が出来上がっています。今年伸びた枝元(つる)の3～4節を残して剪定せんていして越冬に備えましょう。
- **フドウ**は春の剪定せんていができません。落葉後、枝が褐色になる11月中旬から下旬に剪定せんていします。枝は棚たなから降ろして越冬に備えましょう。
- 雪害防止せつがいぼうしの冬囲いふゆがこをします。

3 観葉植物類

- 朝の最低気温が15℃以上の時は水や肥料を与えることができますが、10℃以下になる場合には水は鉢土の表面が乾いてから2～3日後に与え、肥料は与えるのを中止します。

4 多肉植物・サボテン類

- サボテン類は冬に向かって休眠していく時期です。水やりは間隔を2週間に一度程度に空けていきます。肥料は与えません
サンセベリアをはじめサボテン類は低温に注意し、水やりは控えます。

〈我が家の庭づくり〉 秋編 秋植え球根の植え付け

《10月中旬になるとホームセンター等で球根が特価販売されるので狙い目！》

*秋植え球根について

チューリップ・スイセン・クロッカスなどヨーロッパ原産のものが多く、暑さに弱い反面寒さには強く低温に遭わないと花が咲かない性質の球根がほとんどです。

・球根の選び方

種類によって球根の大きさは異なりますが、大きくてしっかりと張りがあり表面や発根部に傷のない物を選びましょう。

・庭での配置について

それぞれの種類の特性(草丈や花色、開花の時期、日光の当たり具合など)に合わせてその植物に適する場所に植えましょう。適当に球根をばらまいてその位置に植えてみると自然な雰囲気(ふんいき)に咲いてくれます。最近(最近)は自然に増えたかのように見せる配置(ばらまき配置)が人気です。

・秋植え球根の植え方

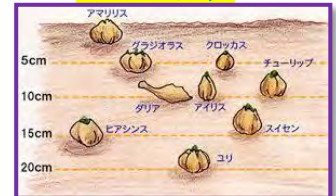
地植えする場合は堆肥をよく混ぜた土に植えます。宿根草の間に植える場合は可能な限り広めのスペースに堆肥等を混ぜ(どじょうかいりょう)土壌改良し、植える位置を決めたら球根の大きさの2~3倍程度の深さに埋め込みます。大きい球根は深め、小さい球根は浅く、あえて密に植えてボリュームを出すと良いでしょう。



秋植え球根各種



ばらまき配置



球根を植えこむ深さ

植物の害虫 その75 モンシロチョウ アブラナ科野菜害虫

発生状況: 令和5年病害虫発生予察では、モンシロチョウの発生量が多いとの情報がありました。

ふ化幼虫は卵殻を食べつくした後に、葉裏から表皮を残し葉肉のみを食害します。生長すると次第に大きな穴を開けるようになり、葉の表に出て食害を始めます。キャベツの大害虫として有名です。

経過習性: 年2~3回発生します。蛹で越冬し、普通、発生地付近の家屋の軒下、板壁などに見られます。

越冬蛹の休眠は約2ヵ月間の低温で覚醒し、早いものは4月下旬頃に成虫が羽化し始め、5月上旬から盛んに飛翔して花の蜜を吸います。成虫の寿命は10~14日間位で、その間にアブラナ科植物の葉裏にトックリ状の卵を点々と一粒ずつ直立に産みます。一雌で100~200卵産みます。

防除対策: ①成虫の飛来状況から発生量を推定します。②防除適期は幼虫が1~2齢の若齢期ですが、発生期間が長いので、他の害虫(コナガ)との同時防除も考慮します。③発生盛期に殺虫剤を7~10日おきに2~3回散布します。



モンシロチョウ成虫



モンシロチョウの卵



モンシロチョウ幼虫

短日植物を楽しむ

「カランコエを買った時は花が咲いていたけどその後は葉っぱばかり。」「ポインセチアの赤かった葉が緑に変わってしまっ赤くならない。」などの相談が当センターに寄せられることがあります。このことは「日照時間が短くならないと花が咲かない＝短日植物」の性質に由来しています。

例えば、身近な植物で短日の性質を持つものにアサガオ、カランコエ、キク、コスモス、サルビア

ア、シネリリア、シャコバサボテン、シソ、セントポーリア、ダリア、プリムラ、ポインセチアなどありますが、これらの植物は屋内照明なども「太陽」の光と同様に反応するので、夜に電気がついている部屋では光を感じて、花を付けなかったり、葉色を変えないことになってしまいます。



人工的に花を咲かせたり、葉を赤くする方法

短日植物は一般的に、昼の長さが10時間以下になると花芽をつける性質があります。

夜に屋内照明があたる場所では長時間、日差しがある環境と同じなので①日中は十分に日に当てて育てるものの、②午後5時から翌朝8時までの時間帯は段ボール箱をかぶせるなどして光を完全に遮断する。通常はこの作業を1ヵ月ほど続ければ花芽分化して花を咲かせたり、葉色を変化させることができます。本来の開花時期以外に花をつけて販売されている花物は、人為的に多様な環境条件をコントロールして花芽分化させ、出荷されていることが少なくありません。

展示室の植物 (110)

トーチジンジャー (別名: タイマツショウガ)

学名: *Etlingera elatior* ショウガ科 エトリンゲラ属



1 m程伸びた花茎の先端で咲く姿が松明＝トーチに似ていることが由来です。真夏日が続いた今年のお盆、当センター展示室で咲きました。草丈が3 m以上にもなる大型の多年草なので、温室がある植物園でなければ見かける機会はないと思いますが、原産地は東インドからインドネシアにかかる亜熱帯地域。果実は生食で、若い花序は香味野菜、種子は香辛料に利用されているそうです。また、花に見えるものは本来の花ではなく葉が変形した「苞」で、写真にはないですが苞の間で咲く、黄色く小さいものが本物の花です。